私たちは"賞味期限切れ"なのですか

拝啓 教育長様

2学期も押し迫った日の午後に、「kick offフォーラム」を視聴しました。そして、その内容に大変な怒りと戸惑いを感じました。この思いは多くの現場教師も同じ思いを抱き、市教組にその声が寄せられたそうです。その声を聴いていただきたく、この場を借りてお伝えします。

まずは、新しい教育施策を進めるためには、私たち現場教師の力なくしては成り立ちません。思い返していただきたいのは、今回のコロナ感染において、突然の休校措置に対し、私たちは子どもたちの命と健康を守り、さらには休校中の学習保障や、子どもたちのメンタル、親御さんの悩みなど、様々な問題に対処し、学校再開にこぎつけました。その後の分散登校中も、学習を取り戻し、「新しい学校生活様式」に対応するための仕事にも取り組んできました。そしてそれは今日現在も続いています。

これらは、私たち「賞味期限切れ」教師が今まで不易なこととしてずっと大切にしてきた教育方法、児童・生徒理解、保護者対応など、あらゆる方法を駆使して、時間を惜しむことなく対処してきたことでできた事です。

それを教育長さんは、今まで長い間さいたま市の教育を支えてきた教職員に対して、そしてどんなにＩＣＴ化された世の中になってもずっと大切にされるであろう不易な教育方法を駆使していく教職員に対して、その成果を「賞味期限切れ」と言い放ちましたね。私はこのことに対して、強い怒りと、抗議の気持ちをお伝えします。まずこれについては発言の撤回を求めます

何をそんなに急ぐのですか 先にやるべき事があるのでは

視聴した動画によると、その推進派の講演者が文科省でなく経産省の方であったことも解せません。かなりのトップの位置におられる方と聞き、これは国家的なプロジェクトを実施するためのもので、条件が整えやすいさいたま市がターゲットにされたことに驚きを覚えます。研究所長の「概要と現状」の話の中でも、「全国の教育委員会の中で最初の試み」と話されたことからも、いち早く飛びついたことがわかります。

聞くところによりますと、このＧＩＧＡスクール構想は国のレベルではまずはインフラやクラウドの整備が喫緊の課題で、実施については文科省の「実現ロードマップ」では、当初はおよそ２０２３年をめどに「３人で１台」を目標にインフラ整備を行うと示されていました。その後、方針の転換で１人１台の計画に前倒しされましたが、ここからも「さいたまモデル」は、全国の中でも突出しているものと思われます。

予算の比較的潤沢と言われているさいたま市では「１人１台」として児童・生徒10万台と、先生方７０００台分を年度内には配布し、順次実施を図るとのことですが、老朽化した施設設備、日常の備品、消耗品費などの教育条件整備の予算や、コロナ関連対策、しいては「35人学級・30人学級の早期導入」に予算を回したほうが、「全国に先駆けた施策」として、ずっとセンセーショナルですし、市民の支持を得られるのではないかと提案します。

不易な教育方法とそれを担った教職員への冒涜ではないですか

心配することがあります。国の推進の流れにさいたま市が利用されていませんか。「時代の先取り」を優先するあまり、今までに大切にしてきた鉛筆と消しゴムを使って、指の筆圧で物事を考えたり、理解したりすることを置き去りにしていると非難されませんか。直接声を掛ける人間的なふれあいで児童生徒理解を図り、人間的な成長を図ることをないがしろにしていると、批判されませんか。筆箱が必要でなくなる学習活動で本当にいいのですか。毎朝の健康把握と対応、人間関係のトラブルの解決もＡＩの指示に委ねていいのですか。

さらに、ＩＣＴ利用による健康障害も未知のものとして、大変不安です。これについては、文科省にもそれを検討する諮問機関（デジタル教科書の位置付けに関する検討会議）があったくらいです。

今までの教育方法とＩＣＴによる教育方法の「ハイブリッド型」といいながら、私たちが長きにわたって不易なこととして大切にしてきた教育方法をきちんと評価せず、「賞味期限切れ」と言い張ったことは、その「賞味期限切れ」教育を進めてきた私たちに対する冒涜でもあります。

今までずっとさいたま市の子どもたちを大切にし、さいたま市の教育を支えてきた教職員をないがしろにし、「大切な施策」があれば、いきなり「ついてこい」と指示されるようなものです。こんなやり方で気持ちよく、納得のいく仕事を進められるでしょうか。（三面へ）

「さいたま市GIGAスクール構想」Kickoffフォーラム開催について

このKickoffフォーラムを通して、市教委、学校の管理職をはじめとした学校職員が、さいたま市GIGAスクール構想についての趣旨や方向性等を共有するとともに、この機会に、まさに、「学びのパラダイムシフト」が起こっていくんだ、という思いを共有できたらと思っております。168名の校長先生方、そして約6,500名の学校職員が一丸となって1人1台端末を活かした授業に向けて準備を進めていきましょう。

このKickoffフォーラムでは、以下のような基調講演や特別講義を予定をしております。

基調講演	経済産業省教育産業室長 浅野 大介 氏	演題	(仮) with コロナ after コロナの学びの改革について
特別講義	ITスペシャリスト（PM） 山本 修平 氏	講義題	(仮) ICTを活用した学校教育への提言
概要説明	インフラ・セキュリティ 石崎 剛史 氏		(仮) 端末整備の進捗状況とセキュリティ確保
	コンテンツ 高橋 智嗣 氏		(仮) 学校、家庭におけるICTの活用イメージ

市教委ＨＰより

経済産業省教育産業室長の浅野大介氏からは「GIGAスクール構想」の開始にあたり、将来を見据えた「未来の学び」など、広い視野から御講演いただきます。ITスペシャリストの山本修平氏にはさいたま市のICTを活用した教育の課題も踏まえ、御講義いただく予定です。その他にも、インフラ・セキュリティワーキングとコンテンツワーキングのITスペシャリストより、専門的な立場から概要説明や進捗状況等をお伝えする予定です。

教育長室の窓から

「さいたま市ＧＩＧＡスクール構想」の本格実施が来春３月に近づいてまいりました。現在、高速大容量ネットワーク工事を順次進めており、端末も今後、徐々に学校に導入してまいります。１人１台の端末が配られると、このようなユースケースが考えられます。小学３年生のＡさん、登校すると保管庫からフル充電された自分の端末を座に持ってきてログインし、計ってきた体温と体調を入力します。Ａさんの担任のティーチャー機には全員分のデータが集まるとともに欠席の連絡も入ってきます。また、前日、算数の授業で二桁の割り算がよく分からなかったＡさん。担任が子どもたちのスタディログをチェックしていたら、Ａさんのつまずきが分かり、昨日の段階で先生は「二桁の割り算、少し難しかったかな？朝、この問題にチャレンジしてみて。」とメッセージを送りました。Ａさんがログインすると昨日分からなかったところを補習するドリルが届いています。「先生、見ててくれたんだ！」とＡさんは朝自習の時間にチャレンジします。続いて１時間目、国語の授業。共通に使える教材、学年で使えるデジタルコンテンツがクラウドに入っているので、それらを使って授業が展開されます。子どもたちは、端末を文房具として使って授業に参加しています。

これはほんの一例で、できることはまだまだたくさんあります。未来社会を支える子どもたちが笑顔で端末を学習等に活用できるように、引き続き、ＩＴスペシャリストの方々から斬新なアドバイスやアイデアをいただきながら準備を進めてまいります。

市教委ＨＰより